全国の学校教員が集う「探究型学習研究大会」を 11/21(土)に本学で開催
高校教員による実践報告と、有識者によるパネルディスカッションを実施

東北芸術工科大学（山形市／学長 中山ダイスケ）は、11 月 21 日（土）に、全国の教育関係者・NPO・教育行政関係者を対象に、探究学習に関する研修大会「2026 年度 探究型学習研究大会」を対面とオンライン配信によるハイブリット方式で開催します。

本学では、県内高校と連携し、「ソウゾウリョクあふれる探究的な学びをデザインする」をテーマに、デザイン思考を活用した探究型学習協働プロジェクトを展開しています。(連携協定締結校：山形東、山形西、山形北、新庄志誠館高校・東桜学館中学校・山形県教育委員会)
このプロジェクトの一環として、2017 年から開催している本大会は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための知を共有する場として、今年で第 10 回を迎えます。これまでの大会では、「総合的な探究の時間」の運営を担う、中学・高校教諭（約 300 名）が全国から集い活発な交流を行ってきました。今年度は「探究的な学び」に造詣の深い有識者を招聘し、予測困難な時代に向け、生徒たちの創造的な学びを引き出し持続させるための糸口を、山形から全国へ発信します。
つきましては、本取り組みを多くの皆様にお知らせしたく、取材のお願いを申し上げます。

―大会テーマとプログラム―

「探究は学校教育をどう変えるのか スクール・ミッションから考える小中高大一貫の学び」をテーマに、宮城県宮城野高等学校、山形県立新庄志誠館高等学校の両教諭より、特徴ある探究活動の取り組みを実践報告としてご紹介いただきます。また、両校からは、探究活動の成果として生徒の皆さんによるプレゼンテーションをご披露いただきます。続いて、今大会の大きな目玉として、探究に携わる行政（文部科学省）、有識者（大学教授）、教育現場（高校教諭）の三者をパネリストに迎え、それぞれ異なる立場から、これからの探究の在り方について多角的に意見を交わします。

■開催概要

日　時：2026 年 11 月 21 日（土）13:00～17:30（開場・開室 12:30）
方　式：①対面（会場：東北芸術工科大学 本館 2 階 201 講義室）、②オンライン（ライブ配信）
対　象：中学・高校教員、教育・NPO・教育行政関係者
定　員：対面 300 名／オンライン 250 名　※事前申込制・参加費無料
主　催：東北芸術工科大学
後　援：山形県教育委員会・山形市教育委員会・宮城県教育委員会・青森県教育委員会・
　　秋田県教育委員会・岩手県教育委員会・福島県教育委員会

■大会コーディネーター

東北芸術工科大学　柚木 泰彦（高大連携推進部長/プロダクトデザイン学科 教授）
　　青柳 敦子（基盤教育研究センター 教職課程 教授）
　　吉田 卓哉（基盤教育研究センター 教職課程 教授）

■プログラム

12:30～	開場・Zoom 開室
13：00	開会・挨拶
13:10～14:20 （70 分）	**実践報告１「さらなる学校の特色化と魅力化を目指して ～探究活動のグランドデザインと現在進行形の実践報告～」** **発表者：狩野織枝氏（宮城県宮城野高等学校 教諭）**※生徒による探究成果発表を含む 自他の「しあわせ」のための「未来デザイン力」育成プログラムとして、本校が創設した「未来構想ゼミナール」の全体像を紹介します。4 系統 13 領域のゼミを通して課題解決型の個別最適化を推進する仕組みや、外部・高大連携をはじめとした本校の探究活動を支えるさまざまな取り組みについて報告します。
14:20～14:30	休憩
14:30～15:40 （70 分）	**実践報告２「地域と育ち合う探究の軌跡 ～新庄北から新庄志誠館へ繋ぐ未来への問い～」** **発表者：笹原智也氏（山形県立新庄志誠館高等学校 教諭）**※生徒による探究成果発表を含む 新庄北高校時代の「最上 Link プロジェクト」で育まれた探究は、新庄志誠館高校へと継承されました。「地域理解」から未来を描く「地域デザイン」へ進化し、ジモト大学との連携等で高校生と地域住民が共に対話し考える場を形成。地域が高校生を、高校生の問いが地域を育てる持続可能な循環について報告します。
15:40～15:50	休憩
15:50～17:20 （90 分）	**講演「探究は学校教育をどう変えるのか スクール・ミッションから考える小中高大一貫の学び」** **登壇者：奈須正裕氏（上智大学 教授）・平千枝氏（国立教育政策研究所）・ 佐々木隆行氏（山形県立山形東高等学校 教諭）** これからの探究には、学校が掲げるスクール・ミッションと、「どのような学習者を育てるのか」という学びの目標とを結びつけ、小中高大を見通した学びの中で、そのあり方を捉え直していくことが求められています。 教育政策を俯瞰する視点、学習論・教育研究の視点、そして高校教育の現場で探究を実践する視点を交差させながら、上記の問いについて考えます。
17:20～	閉会・諸連絡

■出演者のプロフィール情報、申込フォーム等

https://www.tuad.ac.jp/news/information/35056/

■本件に関するお問い合わせ先

東北芸術工科大学 地域連携推進課

TEL：023-627-2139　FAX：023-627-2081（平日 9:00～17:15）　E-mail：y-gakusha@aga.tuad.ac.jp

---

第10回
探究型学習研究大会

探究は学校教育をどう変えるのか
スクール・ミッションから考える小中高大一貫の学び

2026.11.21 土 13:00 ▸ 17:30　対面 ＋ オンライン

東北芸術工科大学では「デザイン思考」を探究学習や課題研究に取り組む教育機関で活用できる考え方と捉え、全国の高等学校と協働しながら、探究を中心とした連携授業、教員研修会、発表会での助言指導等を行っています。

2017 年度にスタートした探究型学習研究大会は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて知を共有する場として毎年開催し、今年で第 **10** 回を迎えます。毎年 **300** 名を超える皆様にご参加いただいてきました。本年度は**「探究は学校教育をどう変えるのか〜スクール・ミッションから考える小中高大一貫の学び〜」**をテーマに、未来の教育を見据えた議論、意見交流の場といたします。

パネルディスカッション

「スクール・ミッションから考える小中高大一貫の学び」に焦点を当て、

1）小中高大の一貫した学びの流れと、総合的な探究（学習）の時間の今後のあり方

2）中央教育審議会での俯瞰的な視点と、教育現場での実践的な視点をつなぐ考え方

の二つを軸に議論を進めます。**上智大学教授 奈須正裕氏、国立教育政策研究所 平千枝氏、山形県立山形東高等学校教諭 佐々木隆行氏**を招聘し、これからの探究のあり方について多面的に考えます。中央教育審議会等で議論される教育の大きな方向性と、日々生徒と向き合う教育現場とを、どのようにつないでいくのか。探究を変えていくために、学校は、そして教員自身は、何を変えていく必要があるのか。参加者の皆様との対話も交えながら、ともに考えを深めていきます。

高校教員による実践報告

山形県、宮城県を代表し、山形県立新庄志誠館高等学校および宮城県宮城野高等学校より、両校の特徴ある探究活動の考え方、取り組み内容をご紹介いただきます。

生徒による探究成果発表

昨年度に初実施、好評につき継続開催いたします。生徒が日頃の探究成果を発表します。上記の両校における特徴ある探究を体現している活動姿勢・生徒の成長の様子にご期待ください。

本研究大会を通して、これからの学校教育をつくるための手がかりを探り、それぞれの学校における次の一歩につながる場となることを目指します。「来年度の探究を、少し変えてみよう。」そう思えるヒントを持ち帰っていただけましたら幸甚です。









昨年度の会場風景

対象｜中学・高等学校教員、教育・NPO・自治体関係者

定員｜対面:300名 / オンライン:250名　事前申込制・参加費無料
※定員になり次第締め切らせていただきます。

主催｜東北芸術工科大学

後援｜山形県教育委員会・山形市教育委員会・宮城県教育委員会・青森県教育委員会
秋田県教育委員会・岩手県教育委員会・福島県教育委員会

本学探究型学習協働プロジェクト公式サイト

X（旧 Twitter）

Instagram

2026年度

第10回 探究型学習研究大会

テーマ｜**探究は学校教育をどう変えるのか**
スクール・ミッションから考える小中高大一貫の学び

日　時｜2026年11月21日(土) 13:00 ▶ 17:30　対面 ＋ オンライン

プログラム

12:30　開場・Zoom開室

13:00　開会挨拶

13:10 ▼ 14:20　実践報告1「さらなる学校の特色化と魅力化を目指して ～探究活動のグランドデザインと現在進行形の実践報告～」

報告：狩野 織枝(宮城県宮城野高等学校) ＋ 生徒による探究成果発表

自他の「しあわせ」のための「未来デザイン力」育成プログラムとして、本校が創設した「未来構想ゼミナール」の全体像を紹介します。4系統13領域のゼミを通して課題解決型の個別最適化を推進する仕組みや、外部・高大連携をはじめとした本校の探究活動を支えるさまざまな取り組みについて報告します。

14:30 ▼ 15:40　実践報告2「地域と育ち合う探究の軌跡 ～新庄北から新庄志誠館へ繋ぐ未来への問い～」

報告：笹原 智也(山形県立新庄志誠館高等学校)＋生徒による探究成果発表

新庄北高校時代の「最上Linkプロジェクト」で育まれた探究は、新庄志誠館高校へと継承されました。「地域理解」から未来を描く「地域デザイン」へ進化し、ジモト大学との連携等で高校生と地域住民が共に対話し考える場を形成。地域が高校生を、高校生の問いが地域を育てる持続可能な循環について報告します。

15:50 ▼ 17:20　パネルディスカッション「探究は学校教育をどう変えるのか スクール・ミッションから考える小中高大一貫の学び」

パネラー：奈須 正裕(上智大学)・平 千枝(国立教育政策研究所)・佐々木 隆行(山形県立山形東高等学校)

これからの探究には、学校が掲げるスクール・ミッションと、「どのような学習者を育てるのか」という学びの目標とを結びつけ、小中高大を見通した学びの中で、そのあり方を捉え直していくことが求められています。
教育政策を俯瞰する視点、学習論・教育研究の視点、そして高校教育の現場で探究を実践する視点を交差させながら、上記の問いについて考えます。

17:20　閉会・諸連絡(17:30終了)

申し込み方法

下記のサイト内にある申込フォームよりお申し込みください。

http://sozo.tuad.ac.jp/information/2025.html

申し込み〆切：**2026年11月15日(日)**

※参加希望の方で「日程が合わず参加が難しい」という方は、担当者までご相談ください。
※定員になり次第締め切らせていただきます。
※お申し込み受付後、参加に係る詳細をご連絡いたします。

会場までのアクセス

・路線バス：JR山形駅東口バスプール5番乗り場から「芸術工科大学」ゆき 約20分です。
・タクシー：山形駅から大学まで約20分、2,000円前後です。
・自 動 車：本学敷地内の駐車場をご利用ください。

お問い合わせ

東北芸術工科大学
〒990-9530
山形県山形市上桜田 3-4-5
TEL: 023-627-2139　FAX: 023-627-2081
E-mail: y-gakusha@aga.tuad.ac.jp
地域連携推進課 工藤 (受付:平日9:00-17:15)
大会コーディネーター：柚木 泰彦・青柳 敦子・吉田 卓哉

登壇者



奈須 正裕｜Nasu Masahiro
上智大学　総合人間科学部　教育学科 教授
徳島県生まれ。東京大学大学院修了。博士(教育学)。
国立教育研究所室長、立教大学教授等を経て現職。専門は教育心理学、教育方法学。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会長。
主な著書に『「資質・能力」と学びのメカニズム』(東洋館出版社)、『個別最適な学びの足場を組む』(教育開発研究所)など。



平 千枝｜Taira Chie
国立教育政策研究所　教育データサイエンスセンター学習データ活用調査官(命)教育課程研究センター研究開発部副部長。2018年より文部科学省教育課程課において現行学習指導要領に関する業務に携わる。2020年からの大学入試センターへの出向を経て、2023年から文部科学省学力調査室において全国学力・学習状況調査及び国際学力調査を担当。2025年8月より現職。



佐々木 隆行｜Sasaki Takayuki
山形県立山形東高等学校教諭(生物)
教育企画課長。令和7年度文部科学大臣優秀教職員表彰。2017年より所属校の探究科設置及び探究関連プログラムの開発に携わってきた。文理を問わず自己の在り方・生き方に沿った探究活動を推進し、探究活動とキャリア教育の一体化および学力向上との連動性を高める教育プログラムの開発に取り組んでいる。

狩野 織枝｜Kano Orie
宮城県宮城野高等学校 教諭(数学)
令和7年度より研究企画部に所属。数学・情報・総合的な探究の時間を横断した探究活動を推進。東北経済産業局と連携し、RESAS等のデータ活用を通した情報活用能力の育成を目指し、課題解決能力を育む質の高い探究的な学びの実現に取り組む。

笹原 智也｜Sasahara Tomoya
山形県立新庄志誠館高等学校 教諭(物理)
進路探究部理数探究科長。県教育庁教育政策課、県教育センター指導主事を経て令和6年度より現職。令和7年度よりDXハイスクール担当としてICTを活用した探究学習を推進。統合により新高校となった同校において探究活動の推進に取り組む。

MAP

